2016 年度
産経新聞大阪本社
インターンシップ報告書

関西学院大学　産業研究所

2016年度　産経新聞大阪本社　インターンシップ 概要

■インターンシップの目的：就業体験を通じ、以下の事柄を理解する。
①社会理解―組織の様々な側面に触れ、社会全体との関わりを理解する。
②職業理解―仕事や業界に対する視野を広げ、職業意識を明確にする。
③自己理解―社会から期待される能力・資質について理解し、卒業までの目標を再設定する。

■日時・定員
日　時：2017年2月13日（月）～2月17日（金）
定　員：5名

■応募資格
　以下の要件をすべて満たす方。
①「経済事情Ｆ」を受講していること。
②学部生。ただし 2016 年 3 月に卒業予定の方を除く。
③実習先が指定する実習日の全日程に参加することができる方。

■派遣者
・経済学部３年　男子／２名
・経済学部３年　女子／１名
・社会学部３年　男子／１名

■実習内容
2 月 13 日（月）本社見学、司法記者クラブ見学
2 月 14 日（火）本社見学、動物園記者クラブ見学
2 月 15 日（水）大阪市役所記者クラブ、大阪府警記者クラブ見学
2 月 16 日（木）大阪総局より取材のレクチャー、大阪市役所記者クラブ見学
2 月 17 日（金）大阪天満宮にて取材体験、記事執筆体験

■参加学生の実習目標（報告書より）
・「職業」として新聞社の仕事を見て、覚悟を決める
・新聞記者という職業が自分にとって向いているか見極める
・新聞社及び記者の仕事への理解を深める
・新聞社の全てを知る

■インターンシップを通して学んだこと（仕事、社会、自分）

・私は新聞記者になりたいと思いつつも、果たして自分に向いているのか、或いは心の底からなりたいと思っているのかが分からず毎日悩んでいる日々を過ごしていました。しかし、今回のインターシップで単なる座学だけではなく、大阪市長の記者会見や裁判所や警察の記者クラブなどを見学させて頂き、新聞記者の大変さへ社会に対する新聞の価値や責任、などをまなびました。特に印象に残っているのは最終日に自分で記事を書いてことです。実際に一人で取材したりするのは大変でしたが、自分で人の気持ちを文章化して社会に伝えることに喜びを感じました。インターンシップが終わるころには今までの自分が抱いていたモヤモヤがなくなり、新聞記者になりたいと心の底から思うようになりました。

・まずは新聞について一から紙面出るまでの流れを知ることができました。たくさん部署の協力でないと完成できないから、チームワークの大事さはとても重視されているを感じていました。特に、どのニュースをどのぐらい扱うのかというところは新聞社の価値観などを感じ、非常に難しい問題と思いました。そして記者の現場をたくさん回させていただき、同じく記者でも仕事内容が全く違うことを気付き、記者には人一倍の責任感やニュースへの敏感さがあると改めて思いました。

・このインターンシップには昨年度に続き、2 回目の参加であったが、昨年とは視点を変え、本当の意味での「職業選択」として新聞記者の仕事を肌で感じることが出来た。新聞記者の仕事の大変さややりがいを、実際に現場で働く記者の方のお話や、製作現場の様子から学ぶことが出来、新聞記者という仕事の中身を本当の意味で理解することが出来たと思う。これからの職業選択において、社会の出来事をきちんと伝えていく新聞記者という仕事を目指していきたいと心から思えるようになりました。

・新聞記者が取材、記事作成、会議などを繰り返し、良い紙面作りをしようと働いている姿を間近で見ることができた。新聞社では社会部や、運動部など様々な部署に分かれて取材をしていること、他社との差別化、ネットニュースの作り方などもはじめて学ぶことができた。また自分で実際に取材をして記事を書いてみることで、いかにそれが難しいかを知った。短時間で人から本音をひきだし、そこで自分が感じたことを正確に文章で表すことができる、そしてそれを新聞という商品にするため何度も修正、チェックを重ねて世に出している新聞記者はやはりプロなのだなと身を持って感じた。

■今後の学生生活について（活かしたいこと、課題）

・これから就職活動は本格化し始めます。私は新聞記者が第一志望であり、当然新聞社を受けます。インターンシップ後に新聞記者を志望している複数の友人から聞いたところ他社のインターンシップでは座学が中心であり、産経新聞社のような課外活動は無かったようです。つまり、ライバル達よりも情報や経験をたくさん得ていることになります。私はこのインターンで得られた経験をまとめて新聞記者を志望する理由や新聞社に入社後の自分が取り組みたいテーマを深く掘り下げてみようと思います。

・取材を行い、自分で原稿を書く機会がありました。現場で活躍されている先輩記者から原稿の添削・講評をしていたので、勉強になりました。新聞の作る現場と記者の取材現場について身を持って見ることができたので、今後新聞を読むとき、記事だけではなく、その背後のスタッフの作業に連想することができ、より深くニュースを理解することができると思います。また今回のインターンシップを通じて、選択肢として今後目指す方向が出ました、精神的にもいい刺激を受けた。

・　まずは、就職活動においてじぶんのやりたいこと、目指したいことに軸を持って職業選択をしていきたいと思う。また、就職活動をするに当たって日頃から「社会の動きに敏感になる」事が必要であることに改めて気づかされた。今回にインターンシップ中も常に毎朝新聞を読んでから出かけるようにしていたが、今後もこの習慣を持って、社会の動きに敏感になって生活していきたいと思う。そしてなにより、新聞記者という仕事を目指していきたいと思えるようになった事が一番の収穫なので、この道を目指していきたいと思う。

・私が最も印象に残ったことは、今回のインターンを担当してくださった田井東さんのお話です。紙媒体が力を失っていく世の中でいわゆる斜陽産業と言われる新聞社だが、このまま取材記者がいなくなってしまうと正確な情報がなくなってしまい、それを受け入れる社会になってしまうと日本はどのようになってしまうのか、という話でした。それを聞いた私はとても感銘をうけ、今ある取材記者の能力をこのまま失ってはいけないと強く思いました。この気持ちを忘れることなく、新聞を読み続けて重要性を伝えていくことがひとつの私の課題だと思います。